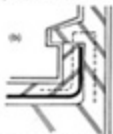


85-16 押入レンガの築込め不良

(a)のように立上り防水部の押入にレンガを平敷に積むやり方は不完成である。面割でも(b)のようなコンクリート押入にしたい。

理由は①レンガと防水部の間にモルタルを充填する仕事が行き届いたためしがなく、押入が押入になっていない。



さらに図(b)のごとくレンガ積みのさいの目地モルタルのかけがらがスラブの防水押入コンクリートの伸びに押されて防水層を割つけ、漏水の原因をつくる。



(a)

85-17 防水層端部の造物による納り

(a)図について

金属板の接手ははずか、平田付け。

金属板は防水部に粘りつけることを避け、温度変化による伸縮が防水層に影響をあたえないようにしている。

折先部は防湿処理を十分にするとみならず割板など異種金属との接触部はアスファルト系塗料などで電気的に絶縁する。

(b)は金属板の接手がはずれたところ。

ここで問題はやはり、金属板の縮退とそれによる隙である。たとえば折先のアングルはいずれは詰まるし、一度詰れば割板と接している部分などは急速に雨が浸入でボロボロになる。

